



教育委員会だより

# 直方の教育

<問い合わせ>  
学校教育課  
TEL 25-2323

## 一年を振り返って

直方市教育委員会

教育部長 安永 由美子

新元号令和となって、はや1年が過ぎました。令和元年度は、4月に大塚新市長による市政がスタート、7月には山本教育長が就任し、新たな陣容で教育行政に取り組みでまいりました。

「未来を拓く、新しい時代をたくましく生き抜く人づくり」をテーマとした直方市教育大綱を定め、情報化やグローバル化といった社会の変革に柔軟に対応でき、その流れの中でも揺るぎない信念で、自らの未来を切り拓いていくことのできる人材を育んでいきたいと考えています。

学校教育では、全国学力・学習状況調査で、初めて小学校の国語が全国平均値を上まわる結果とな

りました。平成30年度からの「直方市学力向上重点取組」が各学校で徹底されてきたことに加え、放課後学習のボランティアの方々やふれあい交流による学習支援など、地域や保護者の皆様のご協力も要因と捉えています。

また、体験型の行事では、小学2年生の「大相撲もち吉場所」の観戦、6年生の劇団四季の「こころの劇場」の観劇など、地域の企業の支援により、子どもたちの貴重な経験となりました。さらに、小学3年生の社会科見学で石炭と鉄道の歴史を学習する授業では、NPO法人のご協力で実施することができました。他にも、登下校の見守り活動や読み聞かせなど、多くの方々に様々な支援をいただき、感謝の念に堪えません。

学校施設整備では、小学校の普通教室にエアコンを設置した他、トイレの洋式化など充実に取り組みました。また、「直方市学校施設

等長寿命化計画」を作成し、今後、この計画に沿って計画的に施設整備を進めていくこととしました。

児童福祉行政では、新入小学校の児童クラブ施設が完成し、利用者の増加に対応できるようになりました。また、10月からの3歳～5歳の幼児教育無償化実施や第2期直方市子ども・子育て支援事業計画の策定に取り組みしました。

スポーツ行政では、スポーツ振興くじ助成を受けて、西部運動公園テニスコートの人工芝改設およびLED照明改修工事を施工し、市民の皆様にとさらに親しんでいただける施設になりました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症によって、教育現場も過去に類を見ない厳しい状況で始まりましたが、明るい未来へ子どもたちが道を拓いていけるために、私たちはワンチームとなって努力してまいります。

最後になりましたが、ご支援をいただきました関係者、保護者、地域の皆様には厚くお礼を申し上げますとともに、今後もなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 新教育委員の挨拶



あべ ひでこ  
阿部 英子

<職歴> 歯科医師  
<任期> R1.12.16  
～ R3.12.15

昨年12月16日に教育委員を拝命致しました。

辞令をいただき、その責任の重大さを感じるとともに、微力ではございますが、誠心誠意務めてまいります。

平成14年に植木に主人が開業して以来、小児歯科に従事しております。直方の地にご縁をいただき、17年が経過しました。現在、小・中高と3人の子どもに恵まれ、毎日が目まぐるしく過ぎていきます。

日々患者さんに接する中で、お子さんを取りまく環境の変化を強く感じていきます。そのような中で、直方市のお子さんが健やかにたくましく生きていくことを願っています。少しでもお役に立てればと存じますので、どうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

令和元年度の発掘調査から  
文化・スポーツ推進課

令和元年度は、市内で4ヶ所の発掘調査を行いました。

大字中泉では、急傾斜地崩壊防止工事が実施されるため、影響を受ける牟田横穴墓群の調査を実施しました。この地区では十数基の横穴墓が存在するものとみられます。横穴墓とは、古墳時代後半の小豪族のお墓で、群集するという特徴があります。

牟田横穴墓群では、6世紀末〜7世紀中ごろの横穴墓3基の存在を確認しました。うち2基の発掘調査



牟田A号横穴墓の土器出土状況

を実施しました。いずれも後世の盗掘を受けて出土した遺物は少量でしたが、お墓の中や、お墓に至る道から須恵器や耳環（イヤリング）などが出土しています。このうち1基には、屍床が設けられています。屍床とは、亡くなった人を横たえるため、一段高く設けられたベッド状の施設で、熊本県や大分県地方に多く、近隣では鞍手町や中間市に多くみられます。これらの地域との交流があったことがうかがわれます。

大字下新入では、工場の増設工事が実施されるため、影響を受ける平原池ノ上遺跡の調査を実施しました。隣接地では、平成27年度に発掘調査を実施し、弥生時代中期（今から約2000年前）の竪穴式住居跡2基などが出土しています。今回の調査では、住居跡は出土しませんでした。弥生時代の集落の一部を確認し、甕、壺、鉢などの土器が出土しました。また、生活のために掘られた多くの穴があり、そのうちのひとつには多量の石が投入されていました。



平原池ノ上遺跡

中心市街地では、個人住宅の建設に伴って古町遺跡の発掘調査を実施しました。今まで、武家屋敷の一部の調査は実施したことがありますが、400年の伝統を持つ商店街の町屋の一部の発掘調査をはじめて実施し、井戸跡、水路跡などを確認しました。出土遺物は、古伊万里、高取系陶器などの遺物が出土しました。



古町遺跡で出土した古伊万里の小杯（約350年前）



光福寺遺跡現地説明会風景

下境の光福寺遺跡では、納骨堂建て替え工事に伴う発掘調査を実施しました。光福寺遺跡には、鎌倉時代のものとしては県内最大級の方形土塁があり、粥田荘を治めていた在地領主の居館跡ではないかとの説があります。今回の発掘調査によって、遺跡の南側にあった空堀の存在を確認し、出土遺物の年代から、この堀が鎌倉時代のものであることが明らかになりました。なお、調査中の令和元年12月21日には現地説明会を開催しました。光福寺遺跡の調査については、市報（2月号）にも掲載しましたのであわせてご覧ください。